

2002年1月30日
大泰司紀之（北海道大学大学院）

新・生物多様性国家戦略の骨子案では、海洋に関しては、浅海域や海棲哺乳類など以外はほとんど触れられていないことが大変気になります。

日本は世界で有数の長い海岸線を持ち、陸地面積（38万km²）の12倍近い広大な領海と排他的経済水域（447万km²）を持つ国です。

この日本近海は亜熱帯区から寒帯区に至る海洋生物群集を含み、生物生産性が高く、生物多様性・水産資源に富み、そこから多様な魚介類を食料としても得ています。また、面積が広大であるほかに、深さ7000mを超える日本海溝があり、深海に至るまだ十分に解明されていない生物群集にも恵まれています。魚介類の汚染や保全、およびジュゴンの保全でもそうですが、海洋環境の破壊・汚染は、主として陸からの汚染物質や土砂の流入によるものです。

今後の多様性戦略については、海洋生態系の維持が益々重要になると考えられます。

是非とも緊急にその方面の専門家によるワーキンググループを作り、第1～第4部の各節に、海洋環境・海生生物について盛り込んで下さることを提案させていただきます。

COPの主題別分野にも「海洋・沿岸の生物多様性」がございしますが、わが国の海洋環境・海洋生物に関する学問は世界最高のレベルにあります。水産資源の持続可能な利用、という観点から展開された水産資源関係の学問は、海洋における種の多様性（の保全）に関する研究と言うことができ、陸上生態系をしのぐ高いレベルにあります。

世界有数の海洋の生物多様性と研究レベル・研究施設を誇るわが国は、COPにおいて、特に「海洋・沿岸」の分野でリーダーシップを発揮すべきと、主として「陸」を専門とする者からの意見でございします。

以前から、ウミガメや海獣類、北方四島の鯨類や沖縄のジュゴンの調査を通じて、日本の環境保全では、陸に劣らず海が重要とっておりました。

その方面の勉強ができないまま、まとまったかたちで提言できないでおりますが、本日切切のことですのでとり急ぎ考えの要点について述べさせていただきます。